

新型コロナウイルス



監修：大阪大学大学院 医学系研究科
感染制御学 教授
忽那 賢志 先生



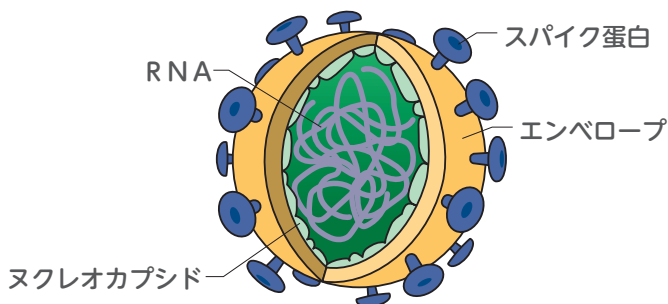
もくじ

- Q1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)とは？
- Q2 主な症状は？
- Q3 流行時期は？
- Q4 潜伏期間は？
- Q5 感染経路は？
- Q6 検査方法は？
- Q7 検査のタイミングは？
- Q8 どのような治療方法がありますか？
- Q9 抗菌薬は新型コロナウイルスに効果がありますか？
- Q10 新型コロナウイルスに感染しないためには？
- Q11 学校や職場はいつから行けますか？

Q1 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)とは？

A1 新型コロナウイルス感染症は「SARS-CoV-2」と呼ばれるコロナウイルスによって引き起こされる病気です。2020年に流行が始まった感染症で、感染症法上の位置付けは、2023年に季節性インフルエンザと同じ「5類感染症」になりました。

SARS-CoV-2 の模式図



Q₂ 主な症状は？

A₂ 新型コロナウイルス感染症の主な症状は、発熱、頭痛、倦怠感(全身のだるさ)、関節痛、筋肉痛といった全身症状や、のどの痛み、鼻汁、咳といった上気道症状が多いです。軽症の場合、症状は概ね1週間程度で軽快することが多いです。重症化する頻度は流行初期のウイルスと比べて低くなりましたが、高齢かつ基礎疾患がある方、一部の妊娠後期の方は重症化リスクが高まるといわれています。インフルエンザと症状が似ていますので、新型コロナウイルス感染症を疑う症状がありましたら、医師にご相談ください。

新型コロナの症状



Q₃ 流行時期は？

A₃ 新型コロナウイルス感染症は、いまだに日本全国で流行の波を繰り返しており、年間を通して感染が広がる可能性があります。

Q₄ 潜伏期間は？

A₄ 新型コロナウイルスの潜伏期間（感染～発症までの期間）は1～7日です。他の人への感染可能期間は、発症前から発症後5～10日間といわれています。



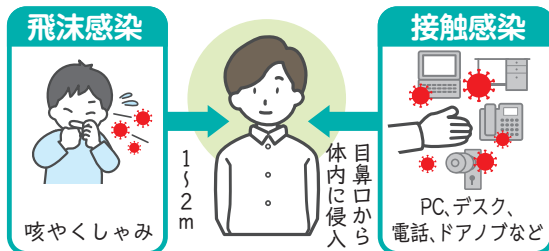
Q5 感染経路は？

A5 感染経路には、主に飛沫感染とエアロゾル感染があります。

飛沫感染は、感染者のくしゃみや咳で飛んだ飛沫を吸い込んだり、目などの粘膜に付着することで感染が成立します。

エアロゾル感染は空気感染（結核など）とは異なり、換気が不十分で人との距離が近い空間において発生しやすいとされています。

また、ウイルスがドアノブや手すりなどの環境表面を介して手に付着し、その手で口や鼻、目などの粘膜に触れることによって起こる接触感染の可能性もありますが、新型コロナウイルスの接触感染リスクは、ごく一部に限られると考えられています。



※エアロゾル感染……空気中に浮遊する微小な粒子（エアロゾル）を吸い込むことによって感染することです。

無症状の人からも感染しますか？

新型コロナウイルスは無症状であっても、他の人への感染可能期間は感染性のウイルスを排出している可能性があります。

Q₆ 検査方法は？

A₆ 新型コロナウイルス感染症の診断には様々な検査法があります。迅速抗原検査キットの場合、検体は鼻の粘膜などから採取し、5～30分程度で結果がわかります。その結果と症状などから、総合的に診断します。



Q₇ 検査のタイミングは？

A₇ 咳やのどの痛み、発熱などの症状があらわれた日から検査ができます。発症後まもない場合は、患者さんによってはウイルス量が十分ではなく、検査キットで陰性となることがあります。また、症状が続く場合は、初回の検査が陰性でも再検査を行うことがあります。



Q8 どのような治療方法がありますか？

A8 新型コロナウイルス感染症には、いくつかの治療薬があります。軽症の場合、自宅療養や対症療法として解熱剤を使用することもあります。ただし、高齢者や基礎疾患がある方では、医師が抗ウイルス薬を処方する場合があります。症状や年齢などによって処方される薬は異なりますので、詳しくは医師にご相談ください。

Q9 抗菌薬は新型コロナウイルスに効果がありますか？

A9 新型コロナウイルスに抗菌薬は効果がありませんが、特に高齢の方や体の弱っている方は、新型コロナウイルス感染症にかかると肺炎球菌などの細菌にも感染しやすくなっています。そのため、細菌性肺炎等の合併症に対する治療として、抗菌薬等が使用されることがあります。

コロナウイルスのワクチンについて

新型コロナワクチンは、国内外で実施された研究などにおいて、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院などの重症化を予防する効果が報告されています。また、医師が特に必要と認めた場合、インフルエンザワクチンや高齢者に対する肺炎球菌ワクチンと同時接種も可能です。

Q₁₀ 新型コロナウイルスに感染しないためには？

A₁₀ 新型コロナウイルスの感染を防ぐためには、次の対策が効果的です。

人混みを避ける、マスク着用、手洗い(手指消毒)などの基本対策

- ・ 周りの方に感染させないためにも、外出時や症状があるときは、マスクの着用を含めた咳エチケットを心掛けましょう。
- ・ 手洗いは石けんやハンドソープを使用して、丁寧に行いましょう。70%アルコール消毒液も有効です。



流行期には、密な空間を避けるためにこまめな換気を行う

- ・ 感染症が流行している時期には、こまめな換気が推奨されます。

換気の際には、2方向の窓を1時間に2回以上、数分間全開にして空気を入れ替えることが効果的とされています。



※事前の備えとして、あらかじめ、迅速抗原検査キットや解熱剤などの常備薬を準備しておく心安心です。

Q11 学校や職場はいつから行けますか？

A11 学校保健安全法施行規則では、「発症した後 5 日を経過し、かつ、症状が軽快した後 1 日を経過するまで」を新型コロナウイルス感染症による出席停止期間として定めています。成人の通勤、通学に関しては、法律に基づいた外出自粛はありません。

詳しくは、職場や学校の規定をご確認ください。また、発症後 10 日間が経過するまで、ウイルスを排出する可能性があります。マスク着用などの咳エチケットを行い、周りの方への配慮を心掛けましょう。症状がある場合、外出は回復するまで控えることが望ましいでしょう。

	0 日目	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目
症状のある方	発症日	外出を控えることを推奨 <small>[発症日を 0 日目として 5 日間 かつ 症状軽快後 24 時間程度]</small>					10日間が経過するまでは、ウイルス排出の可能性があるため、周りの方へうつさないよう配慮する。 ●マスクの着用 ●高齢者等、重症化リスクが高い方との接触は控える など				
症状のない方	検体採取日	外出を控えることを推奨 <small>[検体採取日を 0 日目として 5 日間]</small>									

脱水症状になってしまったとき、どうすればよいですか？

高熱や下痢などによって体内の水分が大量に出てしまうと、脱水症状を引き起こす危険性があります。脱水症状の予防・改善のため、こまめに水分補給を行いましょう。脱水症状になったときには、経口補水液の摂取や点滴治療が有効です。尿量が減る、意識がぼんやりするなどの症状がある場合は、すぐに医療機関へ相談しましょう。

罹患後症状（いわゆる後遺症）とは？

- 新型コロナウイルスに感染してすぐの時期から持続している症状
- 新型コロナウイルス感染症から回復後、新たに現れた症状
- 症状が治まった後に再び現れた症状

これらの症状全般を「罹患後症状（いわゆる後遺症）」といいます。症状の強さや回復期間は人によって異なりますが、ほとんどの場合、時間経過とともに症状は改善していくといわれています。罹患後に気になる症状が続く場合は、医師にご相談ください。



新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスの両方に同時に感染することはありますか？

新型コロナウイルスとインフルエンザの流行のピークが重なった場合は同時感染する可能性があり、様々な症状を引き起こすことがあります。その他にも、鑑別を要する疾患はRSウイルス感染症、マイコプラズマ感染症、溶連菌性咽頭炎など多岐にわたります。いずれも症状だけで区別することが難しい感染症ですが、治療法が異なりますので、検査で明らかにすることが重要です。



2025年6月作成
QC2505003
(1066528)HK